

育てる喜び、育む幸せ。

南幌町

TOWN NANPORO

公立学校情報機器整備事業に

係る各種計画



令和7年3月
南 幌 町

目 次

第1章 G I G Aスクール構想推進計画策定の目的

1 計画策定の目的.....	1
----------------	---

第2章 端末整備・更新計画

1 端末整備の考え方.....	1
2 整備台数と整備スケジュール.....	1

第3章 ネットワーク整備計画

1 必要なネットワーク速度の確保.....	2
2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール.....	3

第4章 校務D X計画

1 学校・保護者間の連絡システム.....	3
2 学習用デジタル採点ソフト.....	3
3 アンケートや配布物のペーパーレス化.....	4
4 校務系・学習系ネットワークの統合.....	4
5 校務支援システムのクラウド化.....	4
6 教育情報セキュリティポリシーの策定.....	4

第5章 一人1台端末の利活用に係る計画

1 I C T環境によって実現を目指す学びの姿.....	4
2 G I G A第1期の総括.....	5
3 一人1台端末の利活用方策.....	5

第1章 G I G Aスクール構想推進計画策定の目的

1. 計画策定の目的

G I G Aスクール構想により、学習用タブレット(以下「chromebook 又は端末」という。)を全児童生徒に整備するなど教育の現場に大きな変革をもたらす契機となりました。本町においても I C T機器が日常的に利用できる環境を整備し、新たな学習の基盤が整いました。

一方、整備した多くの端末は、令和8年3月末で5年が経過するため、令和8年度に新たな端末を更新する必要があります。この新たな端末の整備を円滑に進め、G I G Aスクール第2期における学習環境をより良いものとし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るため本計画を策定します。

第2章 端末整備・更新計画

1. 端末整備の考え方

現行の端末は、令和2年度末に調達し令和3年度から本格的運用を開始し、令和7年度末には耐用年数といわれる5年が経過する時期となっています。

ここ数年は、他市町からの転入者が増えており、毎年端末の予算を確保し整備を図っています。

しかし、令和2年度末に購入した端末は、経年劣化による不具合や液晶割れによる破損も増えており、軽微な場合は修理を行っていますが、液晶割れについては予備機で対応するなど、修理が困難な端末も少なからず増えていることから安定した端末の整備が必要です。

2. 整備台数と整備スケジュール

(1)整備台数

G I G A第2期の端末は、601台の整備を予定しています。

(2)整備スケジュール

G I G A第2期の端末は、令和8年度末までに購入し、令和9年度から使用できるよう整備を図っていきます。

(3)端末のリユース・リサイクル・処分について

小型家電リサイクル法の認定事業者に再使用・再資源化を委託します。

端末のデータ消去方法は、処分業者へ委託します。

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	489	530	567	597	633
② 整備上限台数	562	609	552	85	126
③ 整備台数	0	100	436	0	97
④ ③のうち基金	0	100	436	0	97
⑤ 累積更新率	0.0%	18.9%	94.5%	89.8%	100.0%
⑥ 予備機整備	0	0	65	0	29
⑦ ⑥のうち基金	0	0	65	0	29
⑧ 予備機整備率	—	—	14.9%	—	29.9%

第3章 ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度の確保

学校規模別の当面の推奨帯域（令和6年4月26日付初情教第2号「学校のネットワークの改善について」で通知）が児童生徒の使用するネットワークにおいて満たされている場合は、必要なネットワーク速度が確保できていると判断され、同時に全ての授業において、多数の児童生徒が高頻度で端末を活用する場合にもネットワークを原因とする支障がほぼ生じない水準とされています。

本町においては、下記のとおり小・中学校ともに必要なネットワークの速度は確保できています。

【学校規模別の当面の推奨帯域】 ※帯域≡通信速度

児童生徒数	推奨帯域	児童生徒数	推奨帯域
150人	270Mbps	350人	437Mbps
210人	377Mbps	420人	468Mbps
280人	408Mbps	490人	496Mbps

※150人南幌中学校、350人南幌小学校

※帯域≡各学校のインターネット回線の出口の速度 南幌町200Mbps

※実測値≡各学校のchromebookで測った値

南幌中学校 210～260Mbps、南幌小学校 400～540Mbps

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題の特定

町内の小・中学校において十分なネットワーク速度の確保はできていますが、今後の学習用端末の利用状況や環境等の変化により課題が生じた場合には、アセスメントを行い課題の解決を図ります。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

現状では改善を要する学校はないが、ネットワークアセスメントの課題が生じた場合には原因を特定し、結果を踏まえ改善に向けて迅速な対応を図ります。

第4章 校務DX計画

南幌町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度末に児童生徒用と指導者用の端末と校内ネットワークの整備を行い、令和3年度より授業においてICTの活用を推進してきました。

ICTの活用は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に必要なだけでなく、教職員の働き方改革を進めるうえでも極めて重要な役割があると考えています。ICTを活用して校務の効率化を図ることで、教職員の働き方改革を推進し、教職員の事務負担等の軽減や児童生徒と向き合う時間を確保していくなど教育の質の向上を図っていきます。

今後の校務DXの推進については、各学校現場の意見を十分に反映したうえで下記の内容を中心に取り組みを図ります。

1. 学校・保護者間の連絡システム

本町では学校と保護者間における連絡用アプリを導入し、学校から保護者への連絡の配信や保護者からの欠席連絡等をデジタル化するなど、利便性の向上と教職員の業務負担の軽減を図っており、今後も学校と保護者間の連絡手段のデジタル化を推進します。

2. 学習用デジタル採点ソフト

令和3年度に小・中学校において、同じ学習用ソフトを導入しました。

一部AIにより採点できる機能が備わっていますが、あまり活用されていないのが現状として見受けられます。この学習用ソフトは令和7年度で契約が満了するため、新しい学習用ソフトについては、教職員全員が活用するようなソフトの選定を行い、紙のテストの作成や採点業務の軽減に繋げ児童生徒と向き合う時間の確保を図ります。

3. アンケートや配布物のペーパーレス化

これまで集計等に多くの時間を要していた児童生徒と保護者への調査・アンケートについては、グーグルフォームなどのオンラインツールを活用して実施しているとともに、保護者への配布物についても連絡用アプリを通じて周知することを推奨しペーパーレス化を図っています。

また、職員会議や研修会における資料においても、教員用端末で共有しペーパーレス化を図っています。

今後もオンラインツールや既存の連絡用アプリを推奨しながら、ペーパーレス化を図っていきます。

4. 校務系・学習系ネットワークの統合

校務系・学習系ネットワークの統合については、ゼロトラストセキュリティの考えに基づき、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じることを前提としたうえで検討を進めます。

5. 校務支援システムのクラウド化

現在、教育におけるネットワークは校務系と学習系の2つに分離され、校務系は職員室内でしか使用できない環境となっています。

そのため校外において生成された学習系データと校務系データの連携が困難であるため、校外で校務処理ができないことが課題となっています。

今後、教員の働き方改革を推進していくうえで、どの環境からもアクセスが可能となるよう検討を図ります。

6. 教育情報セキュリティポリシーの策定

現在、教育環境情報セキュリティポリシーを策定していますが、今後クラウドサービスを活用することを前提として、国の方向性や現状を把握したなかで必要に応じて改正を図ります。

第5章 一人1台端末の利活用に係る計画

1. ICT環境によって実現を目指す学びの姿

近年、情報化社会の進展が著しく教育現場においてもICTの活用が不可欠なものとなっています。

本町では、端末(chromebook)を活用し児童生徒の可能性を最大限に引き出し、子どもが主語となる学びの実現を図ります。

2. G I G A第1期の総括

南幌町では令和2年度にG I G Aスクール構想の実現に向け、chromebookの導入、校内通信ネットワークやこれら周辺機器の整備、また令和3年度には学習用ソフトの導入を行いました。さらに現在に至るまで全ての普通教室に電子黒板も整備してきました。これからはG I G A第2期ということで、個別最適な学びと協働的な学びを通して教育の質を向上させ、児童生徒の資質・能力を着実に伸ばしていく教育が求められています。

しかし、端末の活用は以前として課題が多く、学校間や教員間の中でI C Tの活用における意識が低いことやスキルの差が見受けられるため、必要に応じて研修を実施するなど、スキルの向上と教員のI C Tにおける活用指導力の平準化を図ります。

3. 一人1台端末の利活用方策

(1) 一人1台端末の積極的活用

I C T支援員を継続的に配置し授業へのサポートや各研修を実施するなど、教員のI C T活用におけるスキルを高め、より一層日常的に端末を活用した授業を推進していくことと、今まで以上に児童生徒が活用できる学習用ソフトの選定を図ります。

令和6年度は、I C T支援員により一部の学年においてプログラミング教室を実施し、課題を解決し論理的に思考する力の育成を図っていますが、次年度からは全学年で実施できるようI C T支援員との連携を図ります。

また、家庭学習において端末の活用を推進し、積極的な活用を図ります。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

- ① 児童生徒が一人1台端末を活用し、週3回以上調べ学習を行います。
- ② 児童生徒が一人1台端末を活用し、週3回以上自分の考えをまとめ、発表や表現する学習を行います。
- ③ 児童生徒が一人1台端末を活用し、週3回以上自分の理解度や進捗状況に合わせた課題に取り組みます。

(3) 学びの保障

- ① 特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じ端末を活用した支援を図ります。
- ② 学校に通うことができない状況に備え、教員と児童生徒でオンライン学習が円滑に実施できるよう、平常時にオンライン授業の実践的な演習を行います。
- ③ 希望する児童生徒や保護者に向けて、端末を活用した教育相談を行います。